

自閉症スペクトラム障害をもつ児童生徒の心理的ストレス症状軽減に 対する認知行動論的アプローチに関する検討

(中間報告)

早稲田大学大学院人間科学研究科 藪 崎 浩 史

早稲田大学人間科学学術院 嶋 田 洋 徳

Cognitive Behavioral Approache for Psychological Stress Symptoms in School-Age Children with Autism Spectrum Disorder

Graduate School of Human Sciences, Waseda University MINOSAKI, Kohji

Faculty of Human Sciences, Waseda University SHIMADA, Hironori

要 約

本稿では、ASD をもつ児童生徒の心理的ストレス症状に対する認知行動論に基づく介入研究における介入手続きおよび結果を整理し、ASD をもつ児童生徒に対する有効な介入手続きを検討することを目的とした。3つの介入研究を概観したところ、いずれの研究においても、認知行動論に基づく介入は大きな効果をもつことが示された。また、心理教育、コーピングスキル訓練、認知的再体制化といった手続きが、ASD をもつ児童生徒に対しても有効である可能性が示唆された。

【キー・ワード】自閉症スペクトラム障害, 心理的ストレス症状, 認知行動論的アプローチ

Abstract

The purpose of the present study was to organize intervention procedures and results in interventional studies based on the cognitive behavioral approach to the psychological stress symptoms in school-age children with autism spectrum disorder, and to examine effective intervention procedures to them. When having reviewed major three interventional studies, these studies based on cognitive behavioral approach showed large level of effect size. Additionally, these studies indicated that the possibility that it is effective in these children to combine psychoeducation, coping skills training, and cognitive restructuring.

【Key words】 autism spectrum disorder, psychological stress symptoms, cognitive behavioral approach

はじめに

高機能自閉症やアスペルガー障害などの自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder; 以下, ASD) をもつ児童生徒は, 社会性, コミュニケーション, 創造的活動といった領域における一次的な障害から, 社会的活動や課題遂行において失敗を経験することが多く, その結果, 抑うつや不安といった心理的なストレス症状を示すことが示されている (Kim et al., 2000)。

これまで, 定型発達の児童生徒の抑うつ症状や不安症状などに対しては, 認知行動論に基づいた介入の有効性が示されており, 出来事や問題のとらえ方などの認知的変数や問題に対処するスキルなどの行動変数の変化によって, 症状が軽減されるという効果のメカニズムが明らかとなっている (小関・嶋田・佐々木, 2007; Minosaki, Koseki, Sasaki, & Shimada et al., 2010)。

しかしながら, ASD をもつ児童生徒の心理的ストレス症状に対しては, 従来の認知行動論に基づいた介入が適用されているが, どの程度効果をもつかは十分に明らかにされていない (e.g., Wood et al., 2009)。そこで, 本稿では, ASD をもつ児童生徒に対する認知行動論に基づいた代表的な介入研究を取り上げ, 介入内容およびその結果を整理し, 考察することを目的とする。

方 法

検索方法

ASD をもつ児童生徒の心理的ストレス症状を対象とした認知行動論に基づく介入研究に関する展望を行うにあたって, 1) National Library of Medicine の提供するデータベース PubMed, 2) American Psychological Association の提供する PsycINFO を用いて電子検索を行った。また, 3) 引用文献による検索, 4) ハンドリサーチによる検索も行った。

結果と考察

ASD をもつ児童生徒の心理的ストレス症状を対象とした認知行動論に基づく介入研究を表 1 に示す。いずれの研究においても, 認知行動論に基づく介入によって改善が認められており, また, 比較的大きい効果サイズが得られている。これらのことから, 認知行動論に基づく介入が有効であることが示された。

介入手続きをみても, 多くの研究においても, 心理教育, コーピングスキル訓練, 認知的再体制化が共通して取り入れられている。これらの手続きは, ASD をもつ児童生徒に対しても効果をもつ可能性が示唆された。

表 1 ASD をもつ児童生徒に対する認知行動論に基づくアプローチの有効性研究

Author	Participants	Intervention	Contents	Results	CBT(within)	<i>d</i>	CBT vs WLC	<i>d</i>
Chalfant et al. (2007)	8-13 years 35 boy, 12 girl HFA: 13 AS: 34	1. CBT	Psychoeducation	RCMAS	pre > post	3.69	WLC > CBT	4.38
		2. WLC	Cognitive Restructuring Exercises	SCAS	pre > post	2.48	WLC > CBT	3.16
			Coping self-talk	CATS	pre > post	2.01	WLC > CBT	2.74
			Exposure to feared stimuli Relapse Prevention	SCAS-Parent	pre > post	3.00	WLC > CBT	4.11
Sofronoff et al. (2005)	10-12 years 62 boy, 9 girl AS: 71	1. CBT	Psychoeducation	SCAS	1.: pre > post	.61	WLC = CBT	.48
		2. WLC	(tool box: physical, relaxation, social, thinking)		3.: pre > post	1.04	WLC > CBT+P	1.29
		3. CBT+Parents	Relaxation Social Skills Training Cognitive Restructuring					
Wood et al. (2009)	7-11 years 27 boy, 13 girl Autistic: 20 PDD-NOS: 17 AS: 3	1. CBT	Psychoeducation	CMAS	pre = post	.62	WLC = CBT	-.03
		2. WLC	Coping Skills Training	CMAS-Parent	pre = post	.80	WLC > CBT	1.23
			Exposure					
			Cognitive Restructuring Social Skills Training age-appropriate Self-Help Skills Contingency Management					

今後の課題と方針

現段階では、ASD をもつ児童生徒の心理的的症状に対して、従来の定型発達の児童生徒に対する介入内容がそのまま適用されているだけにとどまっている。ASD をもつ児童生徒において、心理的ストレス症状の軽減に至るメカニズムに関する認知的および行動的変数が十分に測定されておらず、どのような変数の変化が心理的ストレス症状の軽減に作用しているのかといった効果のメカニズムが明確にされていない。

また、ASD は視点の切り替えなどの認知的柔軟性が低いなどといった認知的発達や認知情報処理様式の特徴をもつことが明らかにされているが、そのような特徴が十分に考慮された介入内容になっているとはいえない。出来事や問題のとらえ方といった認知的変数の変容を意図した介入を行う際に、ASD の認知発達や情報処理様式の特徴を考慮した手続きを加えることで、心理的ストレス症状の軽減効果が従来よりも増大すると考えられる。

そこで、今後の方針として、まず、ASD をもつ児童生徒の心理的ストレス症状に影響する認知的変数および行動的変数の同定を行い、介入内容の選定に用いる。次に、心理的ストレス症状に影響することが明らかとなった認知的変数および行動的変数を用いて介入内容を組み立て、さらに ASD の特徴を考慮した手続きを加え、介入の効果の検討を行う。

引用文献

- Chalfant, A., Rapee, R., & Carroll, L. (2006). Treating anxiety disorders in children with high-functioning autism spectrum disorders: A controlled trial. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, **33**, 283-298.
- 小関俊祐・嶋田洋徳・佐々木和義 (2007). 小学5年生に対する認知行動的アプローチによる抑うつ
の低減効果の検討, 行動療法研究, **33**, 45-58.
- Kim, J. A., Szatmari, P., Bryson, S. E., Streiner, D. L., & Wilson, F. J. (2000). The prevalence of

- anxiety and mood problems among children with autism and Asperger syndrome. *Autism*, **4**, 117-132.
- Minosaki, K., Koseki, S., Sasaki, K., & Shimada, H. (2010). School-Based Cognitive Behavioral Intervention for Depressive Symptoms in Junior High School Students. *6th World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies*, Poster, 9-12.
- Soffronof, K., Attwood, T., & Hinton, S. (2005). A randomized controlled trial of CBT intervention for anxiety in children with Asperger syndrome. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, **46**, 1152-1160.
- Wood, J. J., Drahota, A., Sze, K., Har, K., Chiu, A., & Langer, D. A. (2009). Cognitive behavioral therapy for anxiety in children with autism spectrum disorders: A randomized, controlled trial. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, **50**, 224-234.